

## 第11回 海上輸出入通関・海上物流等（合同）WG 議事要旨

1. 日 時 : 平成26年11月14日（金）13:30~16:30

2. 場 所 : ソリッドスクエア 西館地下1階 ホール

### 3. 議事の概要

相互に競争関係にある複数の会社において、カルテルまたはそれと疑われる行為が惹起されることがないように、独占禁止法及び関係法令並びに諸外国の競争法令の順守を原則とし議論を行った。

#### (1) 議題

##### ① 第10回WGの意見等報告について

○ 事務局（センター）から、資料1に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ② サブWG検討結果1

輸出関連業務（SIR/EIR）及びインボイス業務（IVA）の改善（中間報告）

○ 事務局（センター）から、資料2に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ③ サブWG検討結果2：損害保険業務のシステム化

○ 事務局（センター）から、資料3に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ④ サブWG検討結果3：次期ACL業務

○ 事務局（センター）から、資料4に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑤ サブWG検討結果4：CY搬出入・危険物明細書（中間報告）

○ 事務局（センター）から、資料5に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑥ サブWG検討結果5：港湾統計

○ 事務局（センター）から、資料6に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑦ サブWG検討結果6：入出港（中間報告）

○ 事務局（センター）から、資料7に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑧ 輸出入申告における入出力項目の見直し<1>

○ 事務局（センター）から、資料8に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑨ 輸出取止め再輸入手続きのシステム化

○ 事務局（センター）から、資料9に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑩ 事項登録業務・確認業務の追加について<3>

○ 事務局（センター）から、資料10に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑪ 貨物重量項目の桁数拡大

○ 事務局（センター）から、資料11に基づき説明の後、意見交換を行った。

##### ⑫ 1B/Lにおけるコンテナ本数の拡大

- 事務局（センター）から、資料 1 2 に基づき説明の後、意見交換を行った。
- ⑬ 汎用申請手続きの個別業務化
  - 事務局（センター）から、資料 1 3 に基づき説明の後、意見交換を行った。
- ⑭ 保税運送承認番号の複数件入力
  - 事務局（センター）から、資料 1 4 に基づき説明の後、意見交換を行った。
- ⑮ 現行プログラム変更要望の次期対応< 4 >
  - 事務局（センター）から、資料 1 5 に基づき説明の後、意見交換を行った。

## (2) 意見交換の概要

### ◆ 第 10 回WGの意見等報告について

○ 項番 5 について、海上から航空は貨物情報の変換業務が新設されるが、航空から海上についても、貨物情報の変換業務を作って頂けないか。航空貨物で入って来て、海上の保税蔵置場で通関をするケースがあり、海上システムで最初から入力しなければならない。（委員）

⇒ 第 6 次NACCSでは「海上貨物は海上システムで、航空貨物は航空システムで業務を行う。」という方針であり、お申し出のようなケースは、航空システムを利用して通関を行っていただくことを想定している。（事務局）

○ 項番 6 について、要望の意図が違っており、「見本持出確認登録（MHO）」業務が行われていない場合は、「輸出申告事項登録（EDA）」業務および「輸入申告事項登録（IDA）」業務を実施した際にワーニングを表示するとなっているが、本来の要望は「見本持出許可申請（MHA）」業務を実施する前に、気づかずに「輸出申告（EDC）」業務および「輸入申告（IDC）」業務が実施されてしまうことがあり、エラーとはならず申告出来てしまうので、それを防止したいということである。保税蔵置場が保税台帳に記帳されずに、非違となることを心配している。（委員）

⇒ どの貨物が見本持ち出しの対象となるのか事前に把握することは出来ないため、システム対応を行うことは困難である。（事務局）

### ◆ 輸出入申告における入出力項目の見直し< 1 >

○ 先日、事前に概要説明をいただいた際に要望した見直し等に係る意見については、今後、検討して頂けるのか。（委員）

⇒ 入出力項目やレイアウトについては、いただいた要望を踏まえて検討する。（事務局）

○ 税関事務管理人について、輸出入者コードと受理番号とをリンクしてほしい。  
(委員)

⇒ 申告者と税関事務管理人は必ずしも「一対一」の関係だけではなく、「一対多」の関係もあることから、システムで受理番号を自動補完することは難しい。受理番号については、個別に入力をお願いしたいと考えている。(関税局)

◆ 輸出取止め再輸入手続きのシステム化

○ 本件システム化が行われても、保税蔵置場の作業は、従来と変わらないという理解で良いか。(委員代理)

⇒ 保税蔵置場の作業が変わることはない。(事務局)

○ 資料 2 ページの機能概要について、輸出取止め再輸入の情報は保税蔵置場にも配信されるとなっているが、当該コンテナがCYに搬入済みの場合には、CYにも配信されるのか。(委員)

⇒ 配信することを予定している。(事務局)

○ 輸出取止め再輸入の情報は、管理統計資料の輸出と輸入のどちらに反映されるのか。(委員)

⇒ 輸出に反映する想定である。(事務局)

◆ 汎用申請手続きの個別業務化

○ 関係業界にヒアリングされたということであるが、船舶代理店にはヒアリングを行ったのか。内貨船用品の積込申請は多くの船舶代理店が行っている。(委員)

⇒ 本件に関しては、事前に船用品業界の皆さまにヒアリングさせて頂いたが、船舶代理店業界の皆さまからもご意見等があれば、別途ご提出をお願いしたい。  
(事務局)

○ IS承認貨物の再輸出の処理について、外貨船用品で積まれるものは、現在マニュアルで行っている。IS承認後に保税蔵置場が「搬出確認登録(輸出許可済)(BOC)」業務を行うが、外貨船用品を船に積む業務が無い。これについて今後検討されるのか。(委員代理)

⇒ 現状の汎用申請業務で行って頂くことになる。(事務局)

○ NACCSから貨物情報が消えるタイミングは、IS承認を受けた時点か。(委員代理)

⇒ 蔵入承認後の貨物管理については、次回以降のWGにおいて提案する予定で

あるが、第6次では、蔵入承認後も貨物管理を可能としたいと考えている。(事務局)

◆現行プログラム変更要望の次期対応<4>

○ サブワーキングの検討状況の報告があったが、出港前報告制度に係るサブワーキングは開催されていないのではないか。(委員)

⇒ 出港前報告のサブワーキングについては、関税局・税関において整理を行っている段階であり、整理ができた段階で開催する予定である。(事務局)

○ CY搬出入業務に係るプログラム変更要望 No.11,12 の「空コンテナ引渡情報登録(PCD)」業務に関して、Tare Weight(コンテナ自重)関係の要望を行ったが反映されていないのではないか。(委員)

⇒ 改めて確認することとしたい。(事務局)

○ S I / I V関連のサブワーキングは、今後も行われるのか。(委員)

⇒ S I / I V関連のサブワーキングについては、各業務の入力項目の確認作業等もあるので、必要に応じてサブワーキングを開催したいと考えている。(事務局)

○ 「インボイス・パッキングリスト情報登録(IVA)」業務について、現行は輸出と輸入とで同じ業務であるが、輸出と輸入で業務を分ける検討は行わないのか。IVA業務の輸出で外為法の該非判定の項目が無く入力できないので、使いづらいという意見がある。(委員)

⇒ 業務を分けることについては荷主の意向もあり、現状通り同じ業務を進めていく方向である。外為法の該非判定についてはインボイスに載せる内容かどうかも含めて、荷主から意見があれば検討する。(事務局)